



子どもの頃の記憶をたどる

# 岩槻探検・はっけん地図

昭和20年代から40年代にかけて、岩槻は人形作りで活気を帯びていました。人形作りの作業は分業が進み、頭・胴体・手足などの各部位の作り手、人形の小道具・ケースづくり、それらを取りまとめて製品化する卸業・配送用の箱作り・小売業者、などさまざまな職種が発展していました。岩槻ではどの家でも殆んど誰かが何かしらの人形づくりに関わっていた、と言っても過言ではない時代でした。

そんな昭和の時代を、掘り起こし、未来へつなげる岩槻探しへ

発行 2020年2月  
企画・編集 岩槻まちの戦略会議

(この地図はさいたま市(岩槻人形博物館)の協力を得て、岩槻まちの戦略会議が作成しました。)

## 昭和40年代の岩槻

**●人形のまち 岩槻の歴史**  
岩槻の人形発祥の歴史には諸説あるが、江戸時代の初め、日光東照宮の造営・修築にあたった工匠たちにより人形作りが始まったと言われている。



**●岩槻 大構の古木：棕**  
「お土居」と称される大構は、岩槻城(別名：白鯉城)と城下町を取り巻く土塁と塀である。お土居の外側はかつて沼地が広がっていたが、昭和40年代には徐々に埋め立てられ、赤土のグラウンドになっていった。このころまで現在の人形町と駅前通りの交差する土居の上には大棕がそびえていた。今でもこの巨木の一部は岩槻小学校に保存されている。



**●お土居の外側には沼地や池が広がっていた。**  
昭和40年代にはまだ沼地や池の名残があり、水辺は木漏れ日できらきらしていた。沼の真ん中にあるブラモデル屋や、埋め立て跡地の駄菓子屋、沼地でのザリガニ釣りやウシガエルの合唱など、今では面影を探すのも難しい。



**●それからちよっとハイカラな店の話**  
いつもは豆腐や納豆、シジミ売りや玄米パンなどの行商さんのいる町に、ハイカラな店はまぶしかった。ジーンズのモーリー、洋品店タカスマヤ、マンダリンのケーキ、タカラブネのダブルシュークリーム…。(生クリームとカスタードクリームのダブルは、当時としては画期的だった。)



(昭和47年版住宅地図よりアプロット)

## まちは僕らの秘密基地!

**●駄菓子屋**  
昭和40年代を中心に、岩槻の街には多くの駄菓子屋があった。どの家でも家族総出で人形作りに関わっていたので、子どもたちは小遣いをもって外に駆け出した。「ばばあのお店」だの「フランケンのお店」だの、今でも同年代では共通言語になるのかいとおかし。



**●栄ホールのやきそば**  
栄町通りにあった「栄ホール」のおじいさんがつくる焼きそばは当時の中学生が小遣いで食べることができた。細切りナルトと豚骨卵の載った薄味の焼きそばはテーブルの上にあるソース(ペンギンと呼ばれる容器に入っていた。)を自分で味を調整しながら食べていた。



栄町通りにあった「栄ホール」のおじいさんがつくる焼きそばは当時の中学生が小遣いで食べることができた。細切りナルトと豚骨卵の載った薄味の焼きそばはテーブルの上にあるソース(ペンギンと呼ばれる容器に入っていた。)を自分で味を調整しながら食べていた。

## これからの岩槻・残したい岩槻

**●路地と小径のネットワーク**  
岩槻は小路のまちである。お土居で囲まれた人形のまちを歩いてみると、そこそこ小路をつなぐ路地があり、人々の暮らしの中に歩行空間のネットワークがつけられていたことが見えてくる。路地は近代の車交通を気にすることなく、人々の暮らし空間の中でヒューマンスケールのつながりを作り出していた。路地と小径のネットワークを次世代へ継承していきたい。



**●まちなかの人形モチーフ**  
まちを歩いて人形の姿を探してみよう!

古銭灯	駅前カラクリ時計	街灯
植栽足元アート	黒小路公園	

## 探検・はっけん まだまだ不思議に満ちている!

明治4年11月4日、廣瀬豊泉で誕生した埼玉県の中央に位置し、城下町であった岩槻は、曹洞宗の古刹「芳林寺」に初代県庁舎を配置した。しかし、「泉都・岩槻」はわずか1か月でその座を浦和に明け渡した。まちは沼地を埋め立てて広がっていったが、今もそここに通りの名前や地名の由来から昔の面影を見つけられることができる。地図を片手に歩けば、まちの古老たちから「天然水の底なし沼」やら「鯉伝説」なんかも聞けるかもしれない。

まちを観察するといういろいろな年代の建物に出会います。

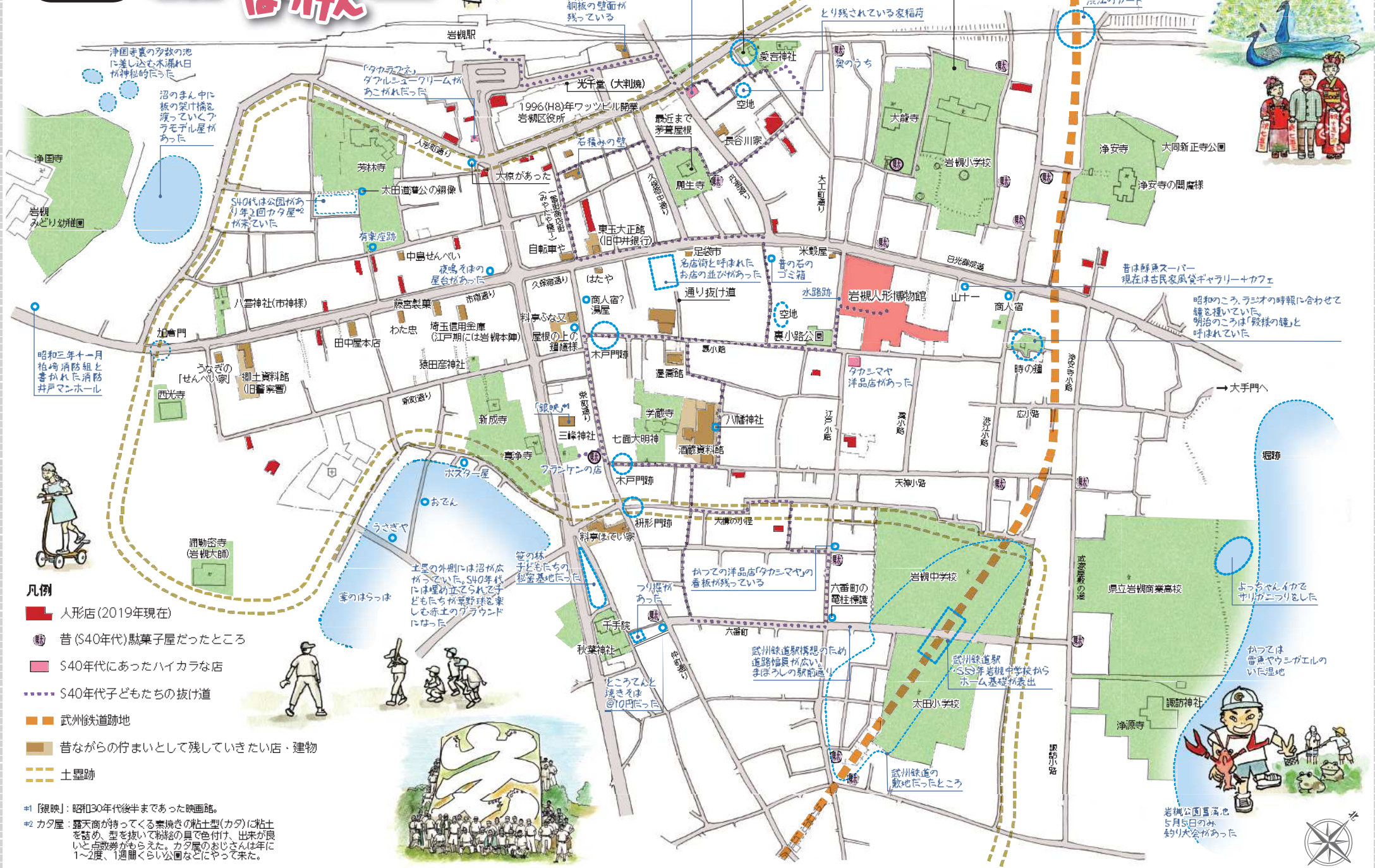


子どもの頃の記憶をたどる

# 岩槻探検・はっけん地図



岩槻久伊豆神社



- 凡例**
- 人形店 (2019年現在)
  - 昔 (S40年代) 駄菓子屋だったところ
  - S40年代にあったハイカラな店
  - S40年代子どもたちの抜け道
  - 武州鉄道跡地
  - 昔ながらの佇まいとして残していきたい店・建物
  - 土塁跡

#1 [銀映]: 昭和30年代後半まであった映画館。  
 #2 カタ屋: 露天商が持つてくる素焼きの粘土型(カタ)に粘土を詰め、型を抜いて糊塗の目地で色付け、出来が良いと点数券がもらえた。カタ屋のおじさんは年に1~2度、1週間くらい公園などにやってきました。

